

〈祈りのために〉

「私は山に向かって目をあげる。私の助けはどこから来るのか。私の助けは天と地を造られた主から来る」。(詩編121編1節)

詩編121編は、巡礼者が遠くエルサレム神殿を仰ぎ見て、期待と喜びの声を上げて歌った歌です。今日、この国の将来や沖縄の現状を見ても、何も希望が見えません。しかし聖書は、「私の助けは天と地を造られた主から来る」と、神から今の時を見ることを教えておられます。

神はアブラハムに「地上の諸国民たちはすべてあなたの子孫によって祝福を得る。あなたが私の声に従ったからである」(創世記12:3、22:18、26:4、5)と語られました。

ヤコブは不安と恐れの中で野宿し、石を枕にして見た夢の中で「わたしはあなたと共にいる。地上の子孫はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福を得る」(創世記28:12-15)という神の使いの言葉を聞きました。彼は、ここに神が働いておられることを経験したのです。私たちは困窮な時に会おうと、不運だ・災いだと嘆きます。しかし天の父は今も働いて、困難を通して神の栄光を現わしておられるのです。

日本キリスト教会の現状に、人々は危機感を持っております。それでも全てのことを益となさる神は、無駄なことを一つもなさらないお方です。キリストがみ言葉と御霊によって教会を統治されることによって、万物万人を統治しておられるのです。そのために朝鮮教会の朱基徹牧師は語ります。「教会に御言葉の命がないから、国家にも命がない。国家と民族の崩壊は、教会が御言葉の命に生きていないからだ」と。それは、教会がみ言葉を聞くただそれだけで周囲の人々が祝福されるのではなく、み霊とみ言葉にうながされてキリストに倣って苦難の十字架を背負うということです。十字架を背負うことは、民衆の叫びを教会の叫びとすることにつながるからです。

使徒の働きによって神の言葉が異邦人世界に広がったのは、乗り越えられない民族と民族との壁に立たされた人々の叫びによって、「キリストにあって一つ」(ガラテヤ3:28)という福音が解決に向かわせたからです。アブラハムに「あなたがわたしの声に従ったために、地上の諸国民たちは祝福を得る」と語られた神の約束は、神の言葉を聞いて民衆の痛みを教会の痛みとすることをおして、祝福が世界に広がることをここで実証しているのです。

1910年の朝鮮教会の信仰復興運動も、日本の帝国主義的植民地化の中で朝鮮民衆の苦難と痛みを教会の苦難と痛みとして祈り求めたことから、福音が朝鮮全土に広がったのです。

沖縄の民衆は、400年以上にわたって日本から差別を受けてきました。しかし、差別され虐げられている人々の経験と感性を通してからでしか、人間が解放される手立てはないのです。キリストは死から復活され、そこから与えられる賜物によって差別され虐げられている者が解放されるのです。この解放が世界に広がって行くという夢が与えられております。

パウロは「私たちはこのような希望によって救われているのです。見えるものに対する希望は希望ではありません」(ローマ8:24)と、語っております。将来の希望が何も見えなくても神に希望があるのです。それゆえに、私たちは「天地を造られた主から…わたしの助けは来る。目を上げて…わたしを上げ」と命じられているのです。

祈り

父なる神よ、日本のキリスト教会全体が危機感に覆われている現状の中で、この危機があなたのご意志であるとするならば、私たちは何を求めるべきでしょうか。どうぞ、あなたの愛の鞭によってこの者を叩いてください。あなたの恩恵に深く与ることから、より厳しく自分の召しを見つめ直し、知恵と悟りの霊を新しく加えてください。ここから宣教の夢と幻を与えてください。

新シリーズ開始『その時に備えて 憲法問題 Q&A』を読む (12)

芳賀繁浩 (福島伝道所牧師)

Q12 自由についての理解は、どのように変わりますか？

A12 「現行憲法」は、国民の身体・精神・経済活動など、広範囲の自由を保障しています。これらの「自由」は、立憲主義に基づけば、公権力から「自由」という意味です。しかし「改正草案」では、この点について微妙な変更をしています。具体的に見てみましょう。

「現行憲法」第19条

思想及び良心の自由は、これを侵してはならない。

「改正草案」第19条 (思想及び良心の自由)

思想及び良心の自由は、保障する。

「侵してはならない」から「保障する」への変更は、先の西歐的な天賦人權説を改めたものです。小さな違いのように見えますが、憲法の有無にかかわらず、人間が絶対的に持っている「内心」の事柄について、天賦人權説を改めるということは、「公益及び公の秩序」に反するものについては、制限があり得るということになります。

例えば、「保障する」という表現は、現行憲法でも信教の自由 (第20条)、表現の自由 (第21条)、学問の自由 (第23条) などにも用いられています。しかし、これらの自由の保障は、宗教儀式への参加を強制されない、検閲はされないといった、内心を表す「行為」に権力が干渉しないという意味です。それに対して第19条は、そもそも人間が持っている内心の自由が、権力によって制限されるような含みを持たせた表現に変わっています。これは立憲主義に反することですし、自由そのものが軽視されていると言えます。

これは、読み込みすぎ、杞憂と言われるかもしれませんが、かつて有事法制についての国会審議の中で、福田康夫官房長官は「内心の自由は保障するが、外部的行為の制約はあり得る」(2002年7月)と言いました。さらに内閣法制局長官は「軍事作戦の中で、教会や神社仏閣の収用はあり得る」と発言しました。為政者の視野の中には、制約する対象として私たちキリスト者が含まれているのです。権力者は、あけすけに自由を制限することはしないでしょう。自由を保障すると言いながら、実質的に個人の自由に干渉するのです。

このことは、すでに「君が代」の問題で明らかになっています。内心の自由とは、それを表明するのもしないのも自由ということ。すなわち「君が代」に対する考えは人それぞれですが、一律に起立して歌うことを強制することは、人の心に入り込んだ上に、それを公表することを迫るものです。「日の丸・君が代」の問題が、現代の「踏み絵」と呼ばれるのはそのためです。これは組織マネジメントの問題だと論点がすり替えられますが、明らかに個人の自由に対する脅威であり、私たちキリスト者にとっても無関係なことではありません。改憲論議で「自由」の扱いがどのように変化するのか、注視すべきです。Q25もご参照下さい。

新Q12-1

「侵してはならない」と「保障する」とはどのような違いがありますか。

新A12-1

「国」「政府」「政権」といった本来の主語を補うと分かりやすくなりますが、「侵してはならない」の場合には「思想及び良心の自由」が「国」よりも上にあり、「保障する」の場合には「国」の下にあります。そうすると、何が保証されるべき「思想及び良心の自由」かを決定する権利が「国」にあることになってしまいます。「自民党改憲草案は思想良心の自由を保障せず」と言われるゆえんです。

新Q12-2

この変更は、具体的にはどのような結果をもたらすことになりますか。

新A12-2

最も直接的には、改憲草案の第3条が定めている、国旗を「日章旗 (日の丸)」とし国歌を「君が代」とすること、さらにその「日の丸」と「君が代」を「尊重」する義務を批判する思想や、従わない良心は保証しないということになります。

ちなみに、旧憲法において「侵スヘカラス」と規定されていたのは「天皇」でした。

ウクライナ戦争によって見えにくくなっているいくつかの出来事について

小塩海平（東京告白教会長老、東京農業大学教授）

岸田首相が先日ウクライナを訪問し、5月に行われる広島サミットにゼレンスキー大統領がオンラインで参加することが報じられた。さらに、すでに決定や表明がなされている総額71億ドルのウクライナへの支援を実施することに加え、新たに、殺傷能力のない装備品を支援するため、NATO（北大西洋条約機構）の基金を通じて3000万ドルを拠出するほか、エネルギー分野などでの新たな無償支援として4億7000万ドルを供与することなどが表明された。「電撃訪問」と報じられた今回のパフォーマンスからは、バイデン米大統領に倣いつつ、西側諸国と足並みを揃え、対ロ制裁をさらに強化することを通して、低迷する支持率をつなぎ止めたいという思惑が見て取れる。しかし、華々しく打ち上げられた数発の花火は、むしろ周囲の闇の深さを一層際立たせているように思われてならない。

イギリスがウクライナに劣化ウラン弾を供与するという恐ろしいニュースが流れたが、かつてアメリカがイラクで使用した劣化ウラン弾により、どれほど多くの人たちが癌を患うようになったのか、広島・長崎・第五福竜丸・福島の悲劇を経験した私たちは、想像することが可能である。ありもしなかった大量破壊兵器の存在とアメリカによる攻撃に先陣切って賛同し、イラク戦争に対する支持を真っ先に表明した日本であればこそ、広島サミットの場において、改めて反核を訴えなければならないはずである。さらにウクライナ戦争が西欧諸国の死の商人を暗躍させていること、ロシアで多くの悲痛な慟哭が押し殺されているであろうことなど、侵略戦争を行い、被爆、敗戦を経験した日本の教会であればこそ、祈祷の課題として取り上げ、自ら悔い改めを深めるとともに、執り成しの務めを果たすことも可能となるのではないだろうか。

一方で、アフガニスタンやミャンマーなど、恐怖政治が行われている国々の情報は、ウクライナの影に隠れ、マスコミからはなかなか得られないのが実情である。アフガニスタンでは、タリバン政権の監視が強まり、かつてのような激しい戦闘は激減したものの、海外からのワクチンや食料が途絶えがちで、結核やポリオなどの感染症が増加し、物乞いや労働をする子どもが増え、栄養状態、衛生状態も改善していない。女性の教育制限、行動制限も厳しくなり、相変わらず、銀行口座からの引き出しも限度額が定められている。タリバン政権の監視が強まるに従って治安は総じて好転していると言えなくはないが、旧政権時代の軍人、警察官、公務員などは多数が失業し、とくに海外で学んだインテリに対する抑圧は厳しさを増している。私の教え子も、一家族はブラジルの人道支援ヴィザを取得してリオデジャネイロの国連高等難民弁務官の難民キャンプで暮らしており、別の一家族は、やはり人道支援ヴィザで渡伯後、さらにカナダを目指して、陸路北上しているところである。書籍などの検閲も苛酷で、別の教え子の父親は、些細な文言がタリバン政権の意に沿わなかったため、現在拘束中である。前途有望な人材が、命を繋ぎ、将来に備えることが出来るよう祈りたい。

ミャンマーの状況もじわじわと悪化している。2年前に博士課程に合格した私の学生は、空港でパスポートを取り上げられ、いまだに来日できない状況が続いている。CDM（市民的不服従運動）に参加しているため、ブラックリストに載ってしまったようで、生命と生活の危機を肌で感じているという。

少数者の私たちに来れることは、派手な花火を打ち上げるのではなく、地道な交流と良質な情報発信、そして心を込めて祈ることを通して、地の塩、世の光としての役割を果たすことである。祈りをとおして、将来の希望を先取りし、苦しむことの意義を見出すようにしたい。

<ヤスクニ問題関連ニュース>

○ 米軍がポンコツとした幽霊機体の維持費が 3000 億円！のナゼ

1 日の参院予算委員会。立憲民主党の辻元清美議員は、岸田文雄首相が打ち出した「異次元の少子化対策」をめぐる予算について質問。防衛予算の大幅増額はあつという間に決めながら、少子化対策予算については歯切れの悪い答弁を終始繰り返す岸田首相にこう迫った。

テレビのワイドショーなどでも取り上げられていた場面だが、この質疑では他にも重要なやりとりがあった。大手メディアではほとんど報じられていないが、辻元議員がこれまでの防衛費の無駄遣いを問いただした時。「今まで買ったもの（武器）にグローバルホークという無人偵察機があります。9 年前に契約しています。買った時は 613 億円、そのあとに維持費が 2951 億円。5 倍も維持費がかかっているんです」

辻元議員は米国と購入契約した無人偵察機の維持費が、購入費と比べても割高ではないかと指摘したのだが、さらに驚いたのはこの言葉だった。「9 年たってもまだ 1 機納入されていないのです」。(日刊ゲンダイ 2023.3.05)

○ 韓国メディア、元徴用工問題巡り保守系も革新系も「失望」 日韓首脳会談で岸田首相から慰労の言葉なし

日韓首脳会談から一夜明けた 17 日、韓国メディアは保守系・革新系を問わず、元徴用工問題を巡る日本の対応に厳しい反応を示した。岸田文雄首相が被害者への慰労や謝罪に言及せず、韓国政府が示した解決策への「呼応」がなかったと受け止められている。訴訟の原告支援団体や野党は強く反発した。

保守系紙の社説は、日韓軍事情報包括保護協定(GSOMIA)の正常化などを歓迎。「韓日が 2019

年 7 月（日本による対韓輸出規制の発動）以前の関係に戻る基盤が用意された」（中央日報）などと一定の評価をした。

だが徴用工問題に関しては、一様に「失望」を表明。岸田氏が歴史認識について「歴代政権の立場を引き継いでいる」とだけ述べたことに、東亜日報は「日本は許される機会を逃した」と指摘した。朝鮮日報は「信頼が築かれれば、今回解決できなかった懸案も解決できるだろう」と今後に期待をつないだ。

革新系のハンギョレ新聞は「韓日関係の悪化を 18 年の最高裁判決のせいにし、日本企業に免罪符を乱発した」と尹錫悦(ユンソンニョル)大統領を批判。「日本の外交的圧勝だ」と恨み節をつづった。

尹氏は 16 日の会見で、18 年の最高裁判決が「それまでの政府の 1965 年請求権協定の解釈とは異なる内容だった」と言及。今回打ち出した解決策では、韓国の財団が賠償を肩代わりした後に被告企業に返還請求をする権利「求償権」の行使は「想定していない」と述べた。

韓国では革新陣営を中心に、65 年協定は日本の植民地支配の不法性を認めておらず不十分な合意だったとの認識が強い。革新系の最大野党「共に民主党」の李在明(イジェミョン)代表は「大統領の 5 年の任期後、国家政策の最終決定権者は別の人になる。誰が今確実なことを言えるのか」と反発した。

政府の解決策を拒否する原告の梁錦徳(ヤンクムドク)さんらを支援する市民団体は 16 日夜に声明を出し、「被害者の人権や国民の自尊心をすべて明け渡した」と尹氏を非難した。(東京新聞 2023.03.18)

819号ヤスクニ通信 2023年4月9日 発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会 発行人・編集・発行 小塩海平(東京告白教会)
--

<編集後記> 1988 年の開学以来、「神と人とに仕え、自然を慈しみ、世界に心を開き、平和の実現のために貢献できる女性」の輩出を掲げてきた恵泉女学園大学が閉学するという。寂しい限りである。K.K.